

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表:令和 6年3月8日

事業所名 運動学習支援教室そらふね黒松 保護者等数(児童数)6名 回収数 100% 割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100%					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	67%	33%				
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	67%	33%				
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%					
適切な 支援の 提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	67%	33%				
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	67%	33%				
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	67%	33%				
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	33%	67%				
保護者 への 説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	67%	33%				
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	67%	33%				
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	33%	67%				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 ができていますか	100%					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に 関する助言等の支援が行われているか	100%					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援されて いますか	33%	67%				
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制が整備されているとともに、子ども や保護者に周知・説明され、相談や申入れを した際に迅速かつ適切に対応されているか	67%	33%				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の ための配慮がなされているか	67%	33%				
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要 や行事予定、連絡体制等の情報や業務に 関する自己評価の結果を子どもや保護者に 対して発信されているか	67%	33%				
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	67%	33%				
非常時 等の 対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・ 説明されているか。また、発生を想定した訓練 が実施されているか	33%	67%				
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出、その他必要な訓練が行われているか	33%		67%			
満足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	67%	33%				
	㉓	事業所の支援に満足しているか	67%	33%				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価
表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和6年3月7日

事業所名:そら・ふね 黒松 保護者等数(児童数)35名 回収数30 割合9%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100%				
	②	職員の配置数や専門性は適切である	93%	7%			
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	97%	3%			
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	100%				
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	96%				
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4%				
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	90%	10%			
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	93%	7%			
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	93%	4%	3%		
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	45%	35%	20%		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	90%	10%			
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	97%	3%			
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	93%	7%			
	⑭	個人情報に十分注意している	100%				
非常時 等の 対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	72%	28%			
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	62%	24%	14%		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	96%	4%			
	⑱	事業所の支援に満足している	96%	4%			

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等
 デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年3月8日

事業所名 そらふね黒松

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	配置等工夫してスペースを確保することができている。	
	②	職員の配置数は適切である	10%	90%		個々の技術等をあげるなど工夫していく
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		100%	事業所までは階段での移動となるためバリアフリーではない	転倒防止の為、職員が必ず付き添いをし安全に移動できるようにサポートを行っている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	90%	10%		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	60%	40%	朝礼、終礼時にミーティングの時間を設けている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		年に1回保護者様向けにアンケートを実施している	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	90%	10%	自己評価表をホームページに公表している	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%		現在は行っていないが今後検討している
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		定期的な勉強会等や研修が実施されている。	
適切な 支援の 提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		日々の療育のなかでニーズを分析したり送迎時に保護者にニーズを聞いたりして	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10%	90%		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている					
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	90%	10%	職員間で情報共有を行いつながりながらプログラム立案を行っている。		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90%	10%	子どもたちが飽きないように色々な教材を取り入れながら行っている。		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%		利用児の状況や発達段階に応じて計画の作成を行っている。		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	10%	朝のミーティングを通し、その日の流れや分担の確認を行っている。		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	45%	55%	次の日の朝にミーティングを行っている。		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	90%	10%	業務日報と支援計画に沿った記録を行っている。		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%		定期的にモニタリングを行い、計画書の見直しを行っている。		
	関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			管理者、児発管が参加する機会を設ける。
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている				
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	67%	33%		現在は医療的ケアが必要な児童がいないが、学んでいく必要がある。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
係機関や保護者との連携	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	66%	34%		
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	34%	66%	公園遊びや外出	機会なし。
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	67%		機会なし。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		日々の送迎時の申し送りや連絡ノートを通して共有している。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	10%	90%		ペアレント・トレーニング等は行っていない。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約の時に丁寧な説明を行っている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		送迎、面談、連絡ノートを通して相談に適切に応じ支援を行っている。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%		現在、行っていないが今後検討する
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		苦情が合った時には職員間で共有し、管理者自発管が主体となり迅速に対応している。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		毎月のおたよりを通して	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		書類の管理・外での会話等に十分に注意している	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		個々に応じた情報伝達方法を提供している	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	90%	10%		現在は行っていないが今後検討していく
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	66%	56%		周知ができていない部分もある為、今後取り組んでいく
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		定期的に避難訓練を行っている	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している				
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		アレルギーのある子どもに対しては職員が把握し配慮を行っている	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		事業所内で共有している	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		カメラの設置や定期的な研修機会を行っている	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	50%	50%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果 (公表)

公表:令和6年3月7日

事業所名 そらふね黒松

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	50%	50%		児童利用に合わせて 合理的配慮を行っている	
	②	職員の配置数は適切である	75%		25%		
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている			100%		事業所前が階段の為、バリアフ リーではないが昇り降りの際に は職員が必ず付き添いを行って いる
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	60%	40%		朝礼等で業務の振 り返りを行っている	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	100%				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	100%				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		65%	35%		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	100%			月一程度で社内 研修があります	
適切 な支 援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	65%	35%			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	90%	10%			
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	90%	10%		専門職と相談しなが ら活動プログラムを 作成している	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	65%	25%	10%	休日や長期休み は外出などを行っ ている	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	100%				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	85%	15%			
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	65%	35%		児童の状況や支援内 容について必ず振り 返る時間を設けてい る		
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	85%	15%			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	100%				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	15%	70%	15%		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	100%			自発管が主に 参加している	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	85%	15%			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えてい る					現在事例無し 受け入れをしていない
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	75%	10%	15%		
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している					現在事例無し
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	100%				
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	75%	25%			
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	60%	20%	20%		自立支援協議会には参加して いないが地域への交流会には 積極的に参加している
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	100%				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている		85%	15%	ペアトレは現在行っていない が保護者からの要望があっ た際に対応していく	
	保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	100%			
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			面談や日々の情報共有で困 り感や悩み事を聞き取り、適 したアドバイスを行っている	
㉒		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	15%	50%	35%		今年度は保護者会を開 催していない為、開催期 間を短くすることを検討す る

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			おたよりなどで活動の様子を周知しております	
	③⑤	個人情報に十分注意している	100%				
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		50%	50%		機会があれば地域交流を活発に行っていききたい
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	10%	10%		
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			災害用の食料や避難用のバックなどを用意している	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	90%		10%		会社で定期的に研修を行っている
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	35%			身体拘束する場面がない
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%				
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%				ヒヤリハットは都度共有し、事故に発展しないように努めている

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。